

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203295	
法人名	有限会社 パルティール	
事業所名	グループホームオリーブガーデン(すみれ)	
所在地	岡山県倉敷市亀山564-3	
自己評価作成日	令和 4 年 3 月 17 日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370203295-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス	
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18	
訪問調査日	令和 4 年 3 月 22 日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症高齢者が人格を尊重され、抑制がなく自由で安心して生活できるよう配慮工夫しています。
 居住環境：建物全体が広く明るく開放的の見守りがしやすく自由な雰囲気にあふれている。各個室はゆったりとして広く、部屋ごとにトイレ・洗面・クローゼットを備えていて、プライバシーを尊重している。
 職員：常に明るくチームワークが良い。介護力も高くマナーも良い。
 地域との関係：地域の協力がとても良く、地域の各行事に参加したり、オリーブの行事に来てくださったりとても友好的である。運営推進会議には地域の代表の方が毎回13人くらい参加してください。
 食事：献立・調理など全職員が入居者の健康・嗜好・食事形態などをふまえた上で工夫を凝らし、家庭的でおいしい食事を提供している。
 ご家族：絶えず連絡をとり良い関係を構築し理解を得ている。
 医療：主治医との関係が大変良く医療が適切に対応が迅速である。ご家族への説明、他の医療機関への紹介など丁寧に対応してくださっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前向きな姿勢で利用者に接している職員が見受けられる。なんとか利用者のストレスやフラストレーションを解消してあげたい気持ちと裏腹に、コロナ禍でより安全という気持ちで、前向きさが少し下がってきている。室内で解消できることを模索しながら、また、敷地内の散歩で、外の空気を少しでも吸わせてあげようと利用者のその人の体調や気分に合わせて取り組んでいる。利用者の気持ちを思うと職員も気が滅入り、施設長や管理者に相談することも多く、いつ何時も聞か耳を持って、家庭と両立できるように、本音で対応している。仲がよく、コミュニケーションも取れていて、お腹の中に溜まったものを吐き出せる関係が備わっているので、職員も利用者も穏やかで、施設の明るい造りや、利用者が作った作品が、心意気を盛り上げようと背中を押していた。そして、新しい風が起こり出した。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	有限会社アウルメディカルサービス	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の方が地域の中でご当たり前前に生活を営んでいけるよう、管理者・職員ともに理念を理解し、実践につなげている。	理念はスタッフルームに掲示している。新入職者には、オリエンテーションの時に説明をして周知している。カンファレンスや会議の中でも理念に触れて、振り返っている。	職員との関係が出来上がっているだけに、コロナ禍終焉を目指し、もっと理念を全面に出して新しい取り組みを考察してはどうかでしょうか？
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方から大変良く協力していただいています。施設代表がずっとこの地域に住んでいて、日頃から仲良くしているので地域住民との関係は大変良好である。	コロナ禍のため、イベントは開催できていないが、地域の方たちが「大丈夫ですか？」と常に気にかけてくれている。学童の通学路なので、「おかえり」と声をかけて手を振っている。町内会や老人会の活動にも積極的に参加して、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館活動、地域包括支援センター等の活動に協力して、地域の方に認知症に対する理解を深めていっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容を職員で検討し、話し合いの内容は都度職員間で話し合いサービスの向上に役立てている。会議の内容は都度家族に報告しています。	コロナ前は、民生委員、土木委員、公民館長、老人会の会長、包括、他のGHの人、家族代表が参加していたが、現在は書面開催にて郵送し、報告している。	写真やお便りをもっと多くの方に手渡し、運営推進会議に参加できる方を増やしてはどうかでしょうか？
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の高齢者支援センターとは日常的に連絡をとりあっており、また推進会議にも毎回参加していただいています。法人全体として良い関係が築けていると思います。	窓口は施設長で、「うちが支援センター」だと言うくらい、仲が良くて何でも話せる関係ができている。支援センターとの関係も深まっていて、居宅関係のことも話ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の運営の基本の前提となっており、身体拘束は全くないと言っても過言ではないと思っています。管理者も職員も良く周知しており、拘束のない介護を実践するための介護力の向上に日々努めています。	身体拘束はしていない。委員会は3ヶ月に1回開催。身体拘束に当たるかどうかの確認や周知をして、コロナ禍で外出ができない中で、代わりになるものは何かあるか？を職員に問いかけて、出来ることは考えている。夜間のみ、安全に配慮して玄関の施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	随時行っているカンファレンスで研修を実施したり話し合っている。職員同士もお互いの介護をよく気をつけている。介護する上で過剰なストレスをためないように絶えず話し合ってチームワークを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり自社研修をしたりして制度の理解を深めている。成年後見制度を施設・家族司法書士などと話し合い活用に至ったケースもある。後見人を必要としている高齢者には支援センターなどと連携を取りながら支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は丁寧に行い、十分理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に目安箱を置いて気楽に意見を伝えてもらうようにしている。また、家族会を毎年開催し意見・要望を伺うようにしている。家族の訪問がとて多く日常的によく話し合っている。家族が訪問しやすく意見の言いやすい施設でありたいと常にオープンな雰囲気になっている	何かわからないことは家族に聞いて、確認するようにしている。現在はコロナ禍なので、家族とは窓越し面会を開催したり、手紙でのやり取りをして、情報共有を図っている。感染症対策にてZoomの活用も取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の代表と常時話し合いを行っており、職員の意見をよく聞いている。もっともっと現場ならではの意見・提案がほしいと思っている。	職員間の仲も良く、コミュニケーションも取れていて、何でも言える関係ができている。有給休暇の取得や出勤の調整も出来ている。勤続年数が長い職員が多く、ほぼ全員がゲートキーパー役だと施設長は自信も持って答えてくれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って働けるようできるだけ配慮をしている。サービス残業はなく、向上心を持って働けるよう資格・役職等には十分な手当をつけている。職員の希望をよく聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修にはよく参加している。施設内での研修も随時実施している。新人職員には管理者などが丁寧に指導にあたっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表は同業者との交流は頻繁に行っている。管理者を含め職員にもっと交流の機会があればサービスの質の向上になりもっと良いとおもわれる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時環境の変化で混乱される事が多くみられます。安心して生活していただくために職員は創意工夫しながら信頼関係の構築に努めています。ご家族・在宅時のケアマネにも協力していただいています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたってご家族は本人に対して自宅で生活する援助ができないことを後ろめたく感じてもらえます。これまでのご家族のご苦労や悩み・要望をしっかりと伺って安心していただけるよう、良い関係を焦らず構築していくようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の話をしっかり聞き、在宅時のケアマネと連絡を密にとりながら、本人・家族にとって良い選択になるよう努めています。どのような支援を求めているか見極め、実践していくよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が持てる能力をいかして自立した生活ができるよう職員とともにお互い協力して生活できるようにしている。人生の先輩として教えていただくことも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が安心して生活していくためには家族の協力が必要です。職員と家族が手を携えて本人を支えて行きます。入居することによって家族・親戚の関係が良くなったケースは多々あります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・親戚・友人がよく訪れています。ご家族との外出・馴染みのレストランでの会食・帰宅・法事など人間関係が途切れないよう支援しています。今までの生活が継続できるよう家族と共に支援しています。	隣接するデイサービスに散歩に行き、近所の方から、花を頂いたら恒例の甘酒を振舞ってくれたことが馴染みとなっている。また、秋になると菊を見に来てと言ってくれる近所の人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がささえあって生活できるよう職員は配慮し心温まる共同生活になり孤立する人がないよう職員は一人ひとりに行き届いた支援を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用中に培った良い関係で、その後のご本人・ご家族の様子に気を配っている。相談にのり必要な援助をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・ご家族・在宅時のケアマネなどからこれまでの暮らし方を伺い、本人の立場に立ってどのような暮らし方を望んでおられるか常に検討し模索している。	日常会話を通じて把握している。また、困難な場合は、家族から情報を得たり、利用者の表情やしぐさ等から把握したりして、利用者本位に検討している。そして、利用者から出た意見は職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族・在宅時のケアマネなどから情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前及び入居後においても一日の過ごし方、心身の状態、有する能力について職員・全ての関係者と協力しながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する前に全ての職員にアセスメントに協力してもらっている。本人・家族の意向を尊重し医師・看護師・職員で話し合いながらアイデアあふれる介護計画を作成している。	介護計画は、入居時、1ヶ月、3ヶ月、それ以降は、6ヶ月毎に見直しをしている。月1回カンファレンスをして、介護に変わりがないか職員間で確認し、看護師の意見も尊重している。利用者の特性を考えた上で、介護計画を作成し、不穏な場合にも適応できるように工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・ケアの実践など全てを記録している。職員は情報の交換・収集・共有に努め、介護の実践にいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズが全く違うので、穏やかで安心して生活していただくためにそれぞれ柔軟な対応を心がけている。例えば病院でのリハビリの協力、腎臓食の提供、食事形態、デイサービスでのカラオケ・卓球などできる限りの援助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーでの買い物、近所のお宅への訪問落ち着いた住宅地での散歩、、神社・公園などへのドライブ、地域の神社へ初詣のお招き、公民館でのいろいろな催し等々様々な資源を活用して豊かな生活を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と事業所の関係はとて良好で、本人・ご家族への医師の対応も大変良く、適切な医療が行われている。	内科、他科を含めて、基本看護師が連れて行く。看護師の意見を尊重した上で、モニタリングをして介護計画に反映させている。月1回、ドクターが訪問してくれて、何でも言える関係ができています。訪問歯科が1ヶ月に1回来て、歯磨き指導、嚥下体操もしてくれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と介護職員は良いチームワークがとれていて情報交換はうまくできている。医師との連携も良く適切な医療が提供できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は医師が入院先の医師と連絡をとりながら適切に対応している。施設も入院先のソーシャルワーカー等と連携を取りながら早期の退院に向けて絶えず相談している。退院時も情報をしっかり共有し医療の適切な継続につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事業所の指針を書面で説明している。重度化した時は医師・ご家族・管理者・看護師・ケアマネ・介護職員などと都度説明・相談しながら対応を検討している。	ターミナルは実施していて、デスカンファレンスにて報告や意見を出し合って、次に活かせるようにしている。入居時に指針を基に説明を行い、同意書と医療連携体制についての話をしている。重度化した場合は、協力医が家族へ説明し、職員間で情報共有しながら看取り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を随時行っている。また看護師の指導で応急処置や初期対応の訓練をしている。医師・看護師と連携を取りながら適切に対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の災害対策の中に位置づけられている。地域との協力関係ができている。事業所でも年2回防災訓練を実施している。非常時の避難方法などについては職員で話し合いを継続している。	年2回火災訓練を実施した。スタッフルームに、連絡網と避難経路を掲示している。備蓄は4～5日分の食料や水を確保し、期限間近のものは利用者と共に食している。隣接するデイサービスの2階が地域の避難場所としても指定されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	建物の設計がプライバシーに配慮したものになっている。各居室にトイレ・洗面台などを配しゆったりした居住空間になっている。職員の言葉かけ・マナーにも個人の人格を尊重した対応になるよう心がけている。	呼称は基本苗字に「さん」付けで呼んでいる。他の呼び方をする場合は、納得して頂いた上で呼ぶようにしている。居室へ入るときは、ノックをしてから入るようにしている。部屋の入り口がL字型になっていて、外から見えないように配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の思いや希望を遠慮なく自由に表現できるよう、職員は利用者の声を傾聴し全てを受容する姿勢で接するようにしている。どの行動に対しても本人の意思を確かめながら行動するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大きな生活上の流れはあるものの、介護上の決まり事は作らず、一人ひとりの思いに添った生活になるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症の方は身だしなみを整えるのが難しくなっています。その人らしくするために洗顔・染髪・化粧・服選び・散髪・パーマなど、身だしなみを整える援助をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の体調・嗜好・食事形態などを考慮しながら職員が交代で献立し、利用者と一緒に買い物・調理・片付けなどを行っている。季節の行事食・誕生日のお祝い膳など楽しい食事になるよう心がけています。	三食手作りで、献立も職員が考えている。時間帯や形状も一人ひとりに合わせ、おやつなども利用者を選んでもらうように工夫している。おやつ作りとして、団子、おはぎ、どら焼きを作った。正月にはお節料理を作り、利用者にも好評だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回食事量などを記録し、栄養バランス・水分量などをチェックしています。医師・看護師・栄養士などと相談しながら一人ひとりの状態に合わせた食事になるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせた口腔ケアを実施しています。訪問の歯科医師・歯科衛生士の指導のもと適切な口腔ケアを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各部屋にトイレがあるため遠慮なく使用している。失敗が少しでもないように早めのトイレ誘導を心がけています。入所してから排泄が自立された方が多くいます。	各居室にトイレがついているので、失禁が少なく感染症予防にも繋がっている。排泄チェック表を活用し、自立排泄を行った結果、布パンツに戻った方もおられる。排泄した場合は「たまの様な息子さんが出てきたねー」と言葉かけをして、自尊心を傷つけないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者は腸の機能が弱くなっていたり、水分摂取量がすくなかったりで便秘の方がとても多いです。食べ物・飲み物を工夫したり、腸の機能を良くする運動をするなど個々に応じた対応をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの生活習慣を大切に希望に添った入浴を楽しんでいただいています。体を清潔に保ち快適な生活になるよう支援しています。	入浴は週2回。シャワー浴の方には、足浴も提供している。入浴を拒否する方には、職員や順番を変えたり、入浴という言葉を使わずに「ニューヨークへ行こう」など言葉かけをして誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や健康状態に合わせて横になったり眠っていただいたりしています。室温に配慮したり静かな音楽を流したりして快適に過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携している薬局の薬剤師が薬の管理をしています。薬の内容は看護師・介護職員ともによく理解しています。間違いなく指示通り服薬できるよう介護職員は細心の注意を払って援助しています。症状に変化があれば速やかに医師・看護師に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の水やり・草取り・掃除などこれまでの生活の中でしてきたことの継続を大切に生き生きとした生活を支援しています。また洗濯物を干したりたたんだり、食事の後片付け・食器洗い等家事を毎日楽しんでます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日できる限り近所を散歩しています。地域の方と立ち話することもたびたびあります。新聞・テレビなどで紹介された場所などへドライブによく出かけます。毎月数回は出かけています。外食に出かけることもあります。	近隣の公民館やデイサービスへ散歩をしたり、施設内のテラスに出て日向ぼっこをしたりしている。正月には施設内に神社を作って、お参りをして外出した気分を味わった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則お金は預かっていません。しかし個々人の希望や管理能力によってはお金を所持されている方がおられます。買い物をする喜びもあり買い物の自由も大切です。お金は立て替えさせていただきご家族と相談しながら援助しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかってきたり、かけたりはとても楽しいし本人・ご家族も安心されるので全く自由に通話されています。携帯をお持ちの利用者様も数名おられます。手紙もいただいたり出したり職員の援助で交流されています。年賀状の援助もしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間には絵画・花・ピアノ・ソファ・テーブルなどを配し入居者の方がホッとするようなご自宅にいるような空間作りを心がけています。広さ・照明・室温などは快適に過ごせるよう配慮しています。また匂いなども気を配り気持ちよく過ごしていただいています。当事業所の最も自信をもっているところです。	天井が高く、晴れた日には陽が差し込むリビングでは、利用者は演歌を聴いて楽しんで過ごしていた。入口付近には節分の写真が飾っており、笑顔で過ごす利用者の姿が窺えた。自然を大切にしているのも、木の素材を使用した大きな柱を身近に触れられるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースがあったり、ソファ・ベンチがあったり、ウッドデッキがあったりしてホッとするスペースが各所にあります。また憩える庭があり気分転換を図っていただいています。職員もこの快適な空間で介護負担が癒やされているとおもいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のこれまでの生活の継続を考慮し居心地良く過ごせるようにご家族がいろいろ配慮・工夫して下さっています。それぞれ個性があり、どの部屋も素敵です。	備え付けは、ベット、洗面所、トイレ、カーテン、クローゼット。車椅子対応の部屋は扉が広く作られていた。お孫さんが海外の大学に合格した記事を大切に飾ったり、趣味の野球のポスターを大きく飾ったりして、自分が居心地よく過ごせる生活空間となっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を十分発揮できるよう建物内外でいろいろ工夫されています。屋外でもガーデニング・バーベキュー・花火・お月見等々いろいろな楽しみがあります。中でもピアノ演奏など楽しく利用して下さっています。自由で自立した生活が送れるようもっともっと創意工夫してまいります。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203295	
法人名	有限会社 パルティール	
事業所名	グループホームオリーブガーデン(たんぼぼ)	
所在地	岡山県倉敷市亀山564-3	
自己評価作成日	令和 4 年 3 月 17 日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370203295-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 3 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症高齢者が人格を尊重され、抑制がなく自由で安心して生活できるよう配慮工夫しています。
 居住環境：建物全体が広く明るく開放的で見守りがしやすく自由な雰囲気にあふれている。各個室はゆったりとして広く、部屋ごとにトイレ・洗面・クローゼットを備えていて、プライバシーを尊重している。
 職員：常に明るくチームワークが良い。介護力も高くマナーも良い。
 地域との関係：地域の協力がとても良く、地域の各行事に参加したり、オリーブの行事に来てくださったりとても友好的である。運営推進会議には地域の代表の方が毎回13人くらい参加してください。
 食事：献立・調理など全職員が入居者の健康・嗜好・食事形態などをふまえた上で工夫を凝らし、家庭的でおいしい食事を提供している。
 ご家族：絶えず連絡をとり良い関係を構築し理解を得ている。
 医療：主治医との関係が大変良く医療が適切に対応が迅速である。ご家族への説明、他の医療機関への紹介など丁寧に対応してくださっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前向きな姿勢で利用者に接している職員が見受けられる。なんとか利用者のストレスやフラストレーションを解消してあげたい気持ちと裏腹に、コロナ禍でより安全という気持ちで、前向きさが少し下がってきている。室内で解消できることを模索しながら、また、敷地内の散歩で、外の空気を少しでも吸わせてあげようと利用者のその人の体調や気分に合わせて取り組んでいる。利用者の気持ちを思うと職員も気が滅入り、施設長や管理者に相談することも多く、いつ何時も聞か耳を持って、家庭と両立できるように、本音で対応している。仲がよく、コミュニケーションも取れていて、お腹の中に溜まったものを吐き出せる関係が備わっているので、職員も利用者も穏やかで、施設の明るい造りや、利用者が作った作品が、心意気を盛り上げようと背中を押していた。そして、新しい風が起こり出した。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	有限会社アウルメディカルサービス	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の方が地域の中でご当たり前のように生活を営んでいけるよう、管理者・職員ともに理念を理解し、実践につなげている。	理念はスタッフルームに掲示している。新入職者には、オリエンテーションの時に説明をして周知している。カンファレンスや会議の中でも理念に触れて、振り返っている。	職員との関係が出来上がっているだけに、コロナ禍終焉を目指し、もっと理念を全面に出して新しい取り組みを考察してはどうかでしょうか？
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方から大変良く協力していただいています。施設代表がずっとこの地域に住んでいて、日頃から仲良くしているので地域住民との関係は大変良好である。	コロナ禍のため、イベントは開催できていないが、地域の方たちが「大丈夫ですか？」と常に気にかけてくれている。学童の通学路なので、「おかえり」と声をかけて手を振っている。町内会や老人会の活動にも積極的に参加して、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館活動、地域包括支援センター等の活動に協力して、地域の方に認知症に対する理解を深めていっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容を職員で検討し、話し合いの内容は都度職員間で話し合いサービスの向上に役立っている。会議の内容は都度家族に報告しています。	コロナ以前は、民生委員、土木委員、公民館長、老人会の会長、包括、他のGHの人、家族代表が参加していたが、現在は書面開催にて郵送し、報告している。	写真やお便りをもっと多くの方に手渡し、運営推進会議に参加できる方を増やしてはどうかでしょうか？
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の高齢者支援センターとは日常的に連絡をとりあっており、また推進会議にも毎回参加していただいています。法人全体として良い関係が築けていると思います。	窓口は施設長で、「うちが支援センター」だと言うくらい、仲が良くて何でも話せる関係ができている。支援センターとの関係も深まっていて、居宅関係のことも話ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の運営の基本の前提となっており、身体拘束は全くないと言っても過言ではないと思っています。管理者も職員も良く周知しており、拘束のない介護を実践するための介護力の向上に日々努めています。	身体拘束はしていない。委員会は3ヶ月に1回開催。身体拘束に当たるかどうかの確認や周知をして、コロナ禍で外出ができない中で、代わりになるものは何かあるか？を職員に問いかけて、出来ることは考えている。夜間のみ、安全に配慮して玄関の施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	随時行っているカンファレンスで研修を実施したり話し合っている。職員同士もお互いの介護をよく気をつけている。介護する上で過剰なストレスをためないように絶えず話し合っチームワークを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり自社研修をしたりして制度の理解を深めている。成年後見制度を施設・家族司法書士などと話し合い活用に至ったケースもある。後見人を必要としている高齢者には支援センターなどと連携を取りながら支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は丁寧に行い、十分理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に目安箱を置いて気楽に意見を伝えてもらうようにしている。また、家族会を毎年開催し意見・要望を伺うようにしている。家族の訪問がとて多く日常的によく話し合っている。家族が訪問しやすく意見の言いやすい施設でありたいと常にオープンな雰囲気になっている	何かわからないことは家族に聞いて、確認するようにしている。現在はコロナ禍なので、家族とは窓越し面会を開催したり、手紙でのやり取りをして、情報共有を図っている。感染症対策にてZoomの活用も取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の代表と常時話し合いを行っており、職員の意見をよく聞いている。もっともっと現場ならではの意見・提案がほしいと思っている。	職員間の仲も良く、コミュニケーションも取れていて、何でも言える関係ができています。有給休暇の取得や出勤の調整も出来ています。勤続年数が長い職員が多く、ほぼ全員がゲートキーパー役だと施設長は自信も持って答えてくれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って働けるようできるだけ配慮をしている。サービス残業はなく、向上心を持って働けるよう資格・役職等には十分な手当をつけている。職員の希望をよく聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修にはよく参加している。施設内での研修も随時実施している。新人職員には管理者などが丁寧に指導にあたっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表は同業者との交流は頻繁に行っている。管理者を含め職員にもっと交流の機会があればサービスの質の向上になりもっと良いとおもわれる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時環境の変化で混乱される事が多くみられます。安心して生活していただくために職員は創意工夫しながら信頼関係の構築に努めています。ご家族・在宅時のケアマネにも協力していただいています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたってご家族は本人に対して自宅で生活する援助ができないことを後ろめたく感じてもらえます。これまでのご家族のご苦労や悩み・要望をしっかりと伺って安心していただけるよう、良い関係を焦らず構築していくようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の話をしっかり聞き、在宅時のケアマネと連絡を密にとりながら、本人・家族にとって良い選択になるよう努めています。どのような支援を求めているか見極め、実践していくよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が持てる能力をいかして自立した生活ができるよう職員とともにお互い協力して生活できるようにしている。人生の先輩として教えていただくことも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が安心して生活していくためには家族の協力が必要です。職員と家族が手を携えて本人を支えて行きます。入居することによって家族・親戚の関係が良くなったケースは多々あります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・親戚・友人がよく訪れています。ご家族との外出・馴染みのレストランでの会食・帰宅・法事など人間関係が途切れないよう支援しています。今までの生活が継続できるよう家族と共に支援しています。	隣接するデイサービスに散歩に行き、近所の方から、花を頂いたら恒例の甘酒を振舞ってくれたことが馴染みとなっている。また、秋になると菊を見に来てと言ってくれる近所の人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がささえあって生活できるよう職員は配慮し心温まる共同生活になり孤立する人がないよう職員は一人ひとりに行き届いた支援を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用中に培った良い関係で、その後のご本人・ご家族の様子に気を配っている。相談にのり必要な援助をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・ご家族・在宅時のケアマネなどからこれまでの暮らし方を伺い、本人の立場に立ってどのような暮らし方を望んでおられるか常に検討し模索している。	日常会話を通じて把握している。また、困難な場合は、家族から情報を得たり、利用者の表情やしぐさ等から把握したりして、利用者本位に検討している。そして、利用者から出た意見は職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族・在宅時のケアマネなどから情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前及び入居後においても一日の過ごし方、心身の状態、有する能力について職員・全ての関係者と協力しながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する前に全ての職員にアセスメントに協力してもらっている。本人・家族の意向を尊重し医師・看護師・職員で話し合いながらアイデアあふれる介護計画を作成している。	介護計画は、入居時、1ヶ月、3ヶ月、それ以降は、6ヶ月毎に見直しをしている。月1回カンファレンスをして、介護に変わりがないか職員間で確認し、看護師の意見も尊重している。利用者の特性を考えた上で、介護計画を作成し、不穏な場合にも適応できるように工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・ケアの実践など全てを記録している。職員は情報の交換・収集・共有に努め、介護の実践にいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズが全く違うので、穏やかで安心して生活していただくためにそれぞれ柔軟な対応を心がけている。例えば病院でのリハビリの協力、腎臓食の提供、食事形態、デイサービスでのカラオケ・卓球などできる限りの援助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーでの買い物、近所のお宅への訪問落ち着いた住宅地での散歩、、神社・公園などへのドライブ、地域の神社へ初詣のお招き、公民館でのいろいろな催し等々様々な資源を活用して豊かな生活を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と事業所の関係はとて良好で、本人・ご家族への医師の対応も大変良く、適切な医療が行われている。	内科、他科を含めて、基本看護師が連れて行く。看護師の意見を尊重した上で、モニタリングをして介護計画に反映させている。月1回、ドクターが訪問してくれて、何でも言える関係ができています。訪問歯科が1ヶ月に1回来て、歯磨き指導、嚥下体操もしてくれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と介護職員は良いチームワークがとれていて情報交換はうまくできている。医師との連携も良く適切な医療が提供できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は医師が入院先の医師と連絡をとりながら適切に対応している。施設も入院先のソーシャルワーカー等と連携を取りながら早期の退院に向けて絶えず相談している。退院時も情報をしっかり共有し医療の適切な継続につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事業所の指針を書面で説明している。重度化した時は医師・ご家族・管理者・看護師・ケアマネ・介護職員などと都度説明・相談しながら対応を検討している。	ターミナルは実施していて、デスカンファレンスにて報告や意見を出し合って、次に活かせるようにしている。入居時に指針を基に説明を行い、同意書と医療連携体制についての話をしている。重度化した場合は、協力医が家族へ説明し、職員間で情報共有しながら看取り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を随時行っている。また看護師の指導で応急処置や初期対応の訓練をしている。医師・看護師と連携を取りながら適切に対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の災害対策の中に位置づけられている。地域との協力関係ができている。事業所でも年2回防災訓練を実施している。非常時の避難方法などについては職員で話し合いを継続している。	年2回火災訓練を実施した。スタッフルームに、連絡網と避難経路を掲示している。備蓄は4～5日分の食料や水を確保し、期限間近のものは利用者と共に食している。隣接するデイサービスの2階が地域の避難場所としても指定されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	建物の設計がプライバシーに配慮したものになっている。各居室にトイレ・洗面台などを配しゆったりした居住空間になっている。職員の言葉かけ・マナーにも個人の人格を尊重した対応になるよう心がけている。	呼称は基本苗字に「さん」付けで呼んでいる。他の呼び方をする場合は、納得して頂いた上で呼ぶようにしている。居室へ入るときは、ノックをしてから入るようにしている。部屋の入り口がL字型になっていて、外から見えないように配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の思いや希望を遠慮なく自由に表現できるよう、職員は利用者の声を傾聴し全てを受容する姿勢で接するようにしている。どの行動に対しても本人の意思を確かめながら行動するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大きな生活上の流れはあるものの、介護上の決まり事は作らず、一人ひとりの思いに添った生活になるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症の方は身だしなみを整えるのが難しくなっています。その人らしくするために洗顔・染髪・化粧・服選び・散髪・パーマなど、身だしなみを整える援助をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の体調・嗜好・食事形態などを考慮しながら職員が交代で献立し、利用者と一緒に買い物・調理・片付けなどを行っている。季節の行事食・誕生日のお祝い膳など楽しい食事になるよう心がけています。	三食手作りで、献立も職員が考えている。時間帯や形状も一人ひとりに合わせ、おやつなども利用者を選んでもらうように工夫している。おやつ作りとして、団子、おはぎ、どら焼きを作った。正月にはお節料理を作り、利用者にも好評だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回食事量などを記録し、栄養バランス・水分量などをチェックしています。医師・看護師・栄養士などと相談しながら一人ひとりの状態に合わせた食事になるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせた口腔ケアを実施しています。訪問の歯科医師・歯科衛生士の指導のもと適切な口腔ケアを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各部屋にトイレがあるため遠慮なく使用している。失敗が少しでもないように早めのトイレ誘導を心がけています。入所してから排泄が自立された方が多くいます。	各居室にトイレがついているので、失禁が少なく感染症予防にも繋がっている。排泄チェック表を活用し、自立排泄を行った結果、布パンツに戻った方もおられる。排泄した場合は「たまの様な息子さんが出てきたね」と言葉かけをして、自尊心を傷つけないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者は腸の機能が弱くなっていたり、水分摂取量がすくなかったりで便秘の方がとても多いです。食べ物・飲み物を工夫したり、腸の機能を良くする運動をするなど個々に応じた対応をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの生活習慣を大切に希望に添った入浴を楽しんでいただいています。体を清潔に保ち快適な生活になるよう支援しています。	入浴は週2回。シャワー浴の方には、足浴も提供している。入浴を拒否する方には、職員や順番を変えたり、入浴という言葉を使わずに「ニューヨークへ行こう」など言葉かけをして誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や健康状態に合わせて横になったり眠っていただいたりしています。室温に配慮したり静かな音楽を流したりして快適に過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携している薬局の薬剤師が薬の管理をしています。薬の内容は看護師・介護職員ともによく理解しています。間違いなく指示通り服薬できるよう介護職員は細心の注意を払って援助しています。症状に変化があれば速やかに医師・看護師に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の水やり・草取り・掃除などこれまでの生活の中でしてきたことの継続を大切に生き生きとした生活を支援しています。また洗濯物を干したりたたんだり、食事の後片付け・食器洗い等家事を毎日楽しんでます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日できる限り近所を散歩しています。地域の方と立ち話することもたびたびあります。新聞・テレビなどで紹介された場所などへドライブによく出かけます。毎月数回は出かけています。外食に出かけることもあります。	近隣の公民館やデイサービスへ散歩をしたり、施設内のテラスに出て日向ぼっこをしたりしている。正月には施設内に神社を作って、お参りをして外出した気分を味わった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則お金は預かっていません。しかし個々人の希望や管理能力によってはお金を所持されている方がおられます。買い物をする喜びもあり買い物の自由も大切です。お金は立て替えさせていただきますご家族と相談しながら援助しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかってきたり、かけたりはとても楽しいし本人・ご家族も安心されるので全く自由に通話されています。携帯をお持ちの利用者様も数名おられます。手紙もいただいたり出したり職員の援助で交流されています。年賀状の援助もしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間には絵画・花・ピアノ・ソファ・テーブルなどを配し入居者の方がホッとするようなご自宅にいるような空間作りを心がけています。広さ・照明・室温などは快適に過ごせるよう配慮しています。また匂いなども気を配り気持ちよく過ごしていただいています。当事業所の最も自信をもっているところです。	天井が高く、晴れた日には陽が差し込むリビングでは、利用者は演歌を聴いて楽しんで過ごしていた。入口付近には節分の写真が飾っており、笑顔で過ごす利用者の姿が窺えた。自然を大切にしているのも、木の素材を使用した大きな柱を身近に触れられるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースがあったり、ソファ・ベンチがあったり、ウッドデッキがあったりしてホッとするスペースが各所にあります。また憩える庭があり気分転換を図っていただいています。職員もこの快適な空間で介護負担が癒やされているとおもいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のこれまでの生活の継続を考慮し居心地良く過ごせるようにご家族がいろいろ配慮・工夫して下さっています。それぞれ個性があり、どの部屋も素敵です。	備え付けは、ベット、洗面所、トイレ、カーテン、クローゼット。車椅子対応の部屋は扉が広く作られていた。お孫さんが海外の大学に合格した記事を大切に飾ったり、趣味の野球のポスターを大きく飾ったりして、自分が居心地よく過ごせる生活空間となっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を十分発揮できるよう建物内外でいろいろ工夫されています。屋外でもガーデニング・バーベキュー・花火・お月見等々いろいろな楽しみがあります。中でもピアノ演奏など楽しく利用して下さっています。自由で自立した生活が送れるようもっともっと創意工夫してまいります。		